

## 第9回臓器移植に係る情報システム作業班 議事要旨

### 1. 日時

令和8年2月13日（金）書面開催

### 2. 構成員

#### ○意見提出者：

小尾 高史（班長）、佐藤 一郎、徳武 康雄

#### ○回答者：

日本臓器移植ネットワーク（JOT）

### 3. 議題

- （1）膵臓選択基準改正（コンポジットグラフト対応）に伴う E-VAS 検証について
- （2）腎臓及び小腸選択基準改正（待機 inactive 対応）に伴う E-VAS 検証について
- （3）小腸選択基準改正（小児優先対応）に伴う E-VAS 検証について

### 4. 結果

膵臓、腎臓、小腸選択基準改正に伴う E-VAS 改修の検証計画について、意見交換の後、了承された。

### 5. 構成員からのご意見およびこれに対する回答

#### 小尾構成員：

- 適合条件1（2）の改定が、システムで処理されるのか、人が入力対応するのかを確認したい。人対応であれば、誤入力があっせん順位に影響しないかの検証が必要かも併せて確認したい。
- **JOT 回答：**選択基準の本記載は、システムではなく人による対応となる。具体的には、あっせん順位確定後に交叉試験を行うかどうかに関する記載となるため、あっせん順位には影響を及ぼさない。

#### 佐藤構成員：

- 膵臓移植医不在時に肝腎同時移植を行う例は想定できるが、腎臓単独移植は実際には多く行われており、例外も多いはずで、JOTの説明を「肝腎同時移植に限定」としてよいのか、確認したい。
- **JOT 回答：**本件では「腎臓単独移植はない」と記載されているが、実際には、膵腎同時移植で一方の腎臓が使用されても、残るもう一方の腎臓が腎臓単独移植として扱われるケースがある。また、他施設では腎臓のみを扱い、腎臓単独移植を多数行っている。

- 3臓器同時移植について、幹旋システムとして当面对応しない方針を否定はしないものの、実際の移植可否は医療側の判断によるべきであり、将来の実施を見据えてシステム側も準備を進めておく必要がある。
  - **JOT 回答**：開発納期の都合もあり、選定以外の統計や帳票の一部について、次期開発に持ち越している箇所がある。これらについては、2026年度以降の対応予定となっている。
- 他の議事録でも、JOTが「転帰情報の詳細は個人票で確認して対応する」と繰り返し述べている。しかし、個人票の確認方法に不備があれば幹旋ミスにつながり得る。そのため、「個人票で確認して対応する」という運用がどのように規定され、JOTがそれを適切に実施できるガバナンスが確保されているのか、説明を求めべきと考える。
  - **JOT 回答**：ご指摘の通り、「個人票にて確認」には状況に応じて様々な確認方法があるため、コーディネーターが利用している業務手順書を含めて、明確に記載されているか確認し問題があれば改善する。

#### 徳武構成員：

- 複数の改正が同時に行われる場合の、システム的な相互影響がないか確認されているのか。
  - **JOT 回答**：部分的な計算（臓器共通の待機日数など）を除き、選定プログラムは臓器ごとに完全に分けられており、相互影響はない。本開発の改修対象臓器については、全ての完成プログラムをビルドした上で結合試験と総合試験を実施し、相互影響がなく想定通りの結果を確認している。
- 優先順位付けの不都合には強い危機感を持って対応が進んでいるが、その他の要件（コーディネーターの負担軽減、医療現場での処理品質の確保など）についても、引き続き十分に意識して進めてほしい。なお、現時点で不足しているという趣旨ではない。
  - **JOT 回答**：E-VASとは異なる別のJOT基幹システムにおいて、提供施設で入手したドナー情報をこれまでは紙に入力していたものをシステムに記録し、利活用できるシステムを導入中となっており、コーディネーターの負担軽減に向けて対応している。
- 最終的に確定した要件定義の内容は、学会の確認を得ているのか。
  - **JOT 回答**：学会とは随時確認を取りながら要件定義書を作成しているが、スケジュールや学会への負担等の問題もあり、要件定義書そのものを学会に確認はしていない。ご指摘頂いた通り、今後も学会への確認結果を整理して要件定義の付帯資料として管理していく。
- 待機 inactive 対応（選択基準プログラムへの改修は発生しない）という記載があるが、優先順位は、当該対応前後で変化しないということか。
  - **JOT 回答**：選択基準プログラムへの改修は無いため、改修前後での変化はないが、移植希望者の状態遷移テストと Excel 選定リストとの比較テストにて、待機 inactive の移植希望者がリストに出力されないことを確認する。尚、プログラムの改修前後のテストについても、ドナーのパターンテストにて実施することとしている。
- バグ状況の分析（要件見直し、仕様変更、誤解、単純ミス等）がなされている／なされる場合は、その評価結果を示していただきたい。
  - **JOT 回答**：検証結果を報告する際に、結合テスト・総合テスト・受入試験における評価結果を追記させて頂く。